



「月の学校 (終)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

一年で一番大きな満月となる「スーパームーン」。一番大切なのは「目視」・・・つまり目で見ることである。しかし、あの美しさを、あとから他者に伝えたい場合は、やはり写真に残しておきたい・・・と思うものである。理科の教師ならなおさらだ。



「9月28日のスーパームーン」f8 1/1000秒 300mm

満月は非常に明るいので、デジタル一眼レフなら、300mmの望遠レンズを使っても、三脚なしで、きれいに撮ることができる。重要なのは絞りと、シャッタースピードで、シャッタースピードが速ければ、手持ちでもブレずに月が写る。絞りもできるだけ絞ったほうが、月の模様がよく写る。しかし、子どもたちが描いた絵にはかなわない。



「月が大きく大きく見えた」「みんなで飾った光のアートがきれいだった」「ビルの上に昇ってきた」・・・何も説明文がなくても、この絵1枚で、一瞬の感動が伝わって来る。傑作である。



私のベストショットは、この1枚。新聞社やテレビ局が、スーパームーンを上空から取材していたのだろう。ヘリコプターが何機か飛んでいた。そのうち1機が、月を横切った。その一瞬！しかし、月に比べて、人間の造ったものなんて、何と小さいことか！



迎えに来た保護者の方も、なかなか帰ろうとしなかった。それほど素晴らしスーパームーンだったのだ。